

銀行の不良債権が着実に減っている。金融庁が2013年9月末時点で集計したところ、ピークだった調査開始時点(02年3月期)と比べ4分の1に減り、過去最低を更新している。アベノミクス(安倍晋三首相の経済政策)により不動産市況が回復し、担保物件の

13年9月末時点

処理も進んでいるようだ。金融庁が115行を対象に聞き取り調査などで集計した。02年3月末に43兆円だった不良債権は13年9月末に11兆円まで減った。13年4～9月の半年間で見ても1兆円減っており、減少ペースは速まっている。背景にあるのは景気回復

の足音が出始めていること。昨年4～9月の正常先の貸出金は9兆円増えた。不良債権予備軍も同期間、3兆円超減っており、正常先への貸し出しの半分はこうした不良先を正常先に格上げした影響と見られる。業況が改善する企業が出始めた可能性がある。不良債権の減少には銀行が不良債権を処理しやすくなった面もある。金融庁が

担保物件、処理進む

まとめた担保不動産の処分実績によると、13年4～9月は4254億円で、前年同期比71%増加した。新生銀行、あおぞら銀行が不動産への融資などで担保を売っているためだ。売却益が1099億円発生しており、両行とも「不動産市況の回復で買い手が現れ、塩漬けを解消できる環境になりつつある」と言う。

不良債権 ピークの1/4